平成２０年度
弥彦村　教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価

Ⅰ　教育委員会の会議及び委員の主な活動

教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が事務を執行する。毎月１回の定例会議や臨時会議を開催し、その他県指導主事の中学校区単位計画訪問、村教職員協議会研修会など学校現場での研修にも参加している。

1	定例会開催回数		１１回
	議案件数		２７件
	・議案		
		うち　条例・規則改正等	６件
		人事案件	４件
		その他	１７件
	・報告		３５件
	・その他		１２件
2	臨時会開催回数		０回
3	学校訪問回数		３回
4	入学・卒業・記念行事等への出席		４回
5	村長との意見交換		１回
6	県教育委員会との意見交換		３回

Ⅱ　教育委員会の事務の管理及び執行状況

１　学校教育に関すること

（１）　職員の任免その他の人事に関すること

ア　教職員定数

	校長	教頭	一般配当	少人数加配	通級加配	養護	栄養	事務
弥彦小学校	1	1	18	1	※　1	1	1	1
弥彦中学校	1	1	13	2		1		1

※小学校通級加配１は、「ことばの教室」担当教員

イ　学級数

	１年	２年	３年	４年	５年	６年	情緒	知的	合 計
弥彦小学校	3	3	※③	2	3	3	1	※１	１９
弥彦中学校	※③	3	3						9

※小学校１・２年生は３２人学級

※③は、特例協議により２学級編制のところ３学級編制にした学年
　新潟県小・中学校学校編制基準により規定されているが、弥彦小学校３年と弥彦中学校１年生を２学級編制のところ３学級編制の特例協議が認められた。

※小学校に知的障害児学級の開設が認められた。

ウ　平成１９年度末・平成２０年度初の異動概要

	退　職		転　出		辞　職		転　入		新採用		欠　員	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
校　　長	1						1					
教　　頭												
教　　諭			3	6			4	5				
養護教諭			1				1					
栄養職員			1				1					
事務職員			1				1					
合　　計	1		6	6			8	5				

（２）　就学、入学、転学に関すること

	入学者	転出者	転入者	卒業者	村外進学者	高校進学率
弥彦小学校	96	1	7	84	※　8	
弥彦中学校	79	0	0	84		※

※　小学校村外進学者の内訳は、燕中等教育学校６名、私立新潟第１中学校１名、燕市中学校１名である。

※　中学校高校進学率は３月末段階にならないと確定できないため未記入。

（３）　学校の組織編成、教育課程、学習指導に関すること

ア　教育課程の編成

年間授業日数

	一学期	二学期	三学期	合　　計
弥彦小学校	75日	77日	50日	202日
弥彦中学校	76日	77日	50日	203日

イ　学校評価の実施

「地域に信頼される特色ある学校づくり」を推進するため、教育活動その他の学校運営の状況について、点検・評価を行い、その結果を基に学校運営の改善を図ってきた。また、学校評議員による学校関係者評価を実施し、その結果を教育委員会、村長に報告する。

＜効果等＞

学校運営の情報公開が一層進んだ。また、各教育活動に対する外部評価の結果を尊重して学校運営改善が行われている。

＜課題等＞

保護者や学校評議員が評価する評価項目についてもう少し検討し、評価しやすい表現や項目を設ける。

ウ　学習指導

①学力向上対策事業

全国学力・学習状況調査の実施と結果の分析を行い、授業改善に生かした。

（小学校６年　国語・算数）

（中学校３年　国語・数学）

全国標準学力テストの実施と結果の分析を行い、授業改善に生かした。

CRT（小学校全学年　国語・算数）

NRT（中学校全学年　国語・数学・英語）

②小学校５年理科３クラスに理科支援員を配置した。　県事業　10／10

③村雇用学習指導支援講師を小学校３名、中学校２名を配置した。

④ALT の配置により小・中学校の外国語教育の充実を図った。

⑤小学校６年生３クラスに図工専科教員を配置した。　県事業　１／３　村２／３

＜効果等＞

学力は、小中学校とも全国並という結果が出ている。学習指導支援講師のティームティーチングや個別指導の充実など効果的活用による学力向上に果たす役割は大きく効果が出ている。

理科支援員の配置（県事業）は理科指導充実の上で大きな効果を上げている。

＜課題等＞

小中学校で実施する標準学力テストの型式をＮＲＴに統一し、結果の分析を小中連携して行う必要がある。

エ　生徒指導及び職業指導等

①生徒指導

いじめを防ぐために、いじめ根絶スクール集会（中学校）を実施した。また、インターネットを使っての書き込み等によるいじめの問題について学習会を実施した。

いじめ、虐待等に対応するため相談指導体制（弥彦村サポートチームの設置）を整備した。

中１ギャップ対応プログラムを小中学校で作成し、計画に基づいて実施した。

不登校対策としてＳＳＷの村単独配置を継続して行い、保護者との面談を実施した。

②キャリア教育

小・中学校とも全体計画を作成し、職場体験活動を計画に基づいて実施した。

③人権・同和教育

人権・同和教育の推進に当たり、教職員一人一人の理解と認識を深め、実践への意欲や指導力の向上を図るため､全教職員を対象にした同和現地研修を実施した。

部落解放県研究集会（村上市）、「愛、いのち、人権」五泉大会へ参加した。

＜効果等＞

携帯電話やパソコンによるネットいじめの防止に向けた講演会の開催や指導により、現在のところトラブルが解消している。

＜課題等＞

不登校児童生徒が増加の傾向にあり、ＳＳＷの相談体制の他、適応指導教室の設置と指導員の配置が望まれる。

オ　特別支援教育

小学校に知的障害児学級を新設したことにより情緒障害児学級と合わせて２学級体制となった。特別に支援を必要とする児童に対して介助員２名を増員し、４名体制として手厚い支援体制を整えた。

＜効果等＞

知的障害児学級の新設、介助員の増員により、対象児童が落ち着いた環境で個別の指導を受けることができ、指導の効果が目に見えて上がっている。

＜課題等＞

通常学級に在籍する発達障害をもつ児童の通級指導体制を整えることが必要である。

カ　体力の向上

全国体力・運動能力、運動習慣等調査を小学校５年、中学校２年に実施し、小学校、中学校での課題を明らかにし、具体的な対応を図った。

＜効果等＞
小中学校とも運動能力は、全国並みかそれ以上である。体位については、学年と性によって若干の違いがあるが全国に比し、やや劣る。

＜課題等＞
小中学校ともに瞬発力と持久力を付けることが求められる。

キ　学校における食育
これまで小・中学校で行われてきた食に関する指導の取組を生かしながら、小学校、中学校における食育を推進した。

＜効果等＞
小・中学校ともに、食に対する関心が高まり、日常生活での実践意欲を高めることができた。
＜課題等＞
弥彦村食育推進計画に基づいた今後の各校の共通理解と実践の具体化が課題である。

ク　心の教育推進事業
過去９年間の実績と成果を踏まえて､児童生徒の夢と希望を育てる事業を実施した。
①マイタウンコンサート：津軽三味線独奏
②３Ｄ立体ハイビジョン上映会
③ふれあい音楽のつどい
④保育園・小学校低学年の観劇会
⑤あいさつ運動の通年実施
⑥ふるさとワークやふれあいカレンダーの作成・配布

＜効果等＞
生の演劇、演奏に触れることができ、大きな感動を得ることができた。また、挨拶運動の恒常化により、地域住民への波及効果が期待できた。ふれあいカレンダーの作成配布は地域住民に大変好評である。

＜課題等＞
マンネリから脱却し、常に取組を反省評価しながら事業に工夫を凝らしていくことが大切である。

（４）　施設及び教具等の整備に関すること

ア　小学校耐震改修

棟　　名	建築年度	構造・階	面積㎡	耐震基準	ＩＳ 値	工事
中　学　年	S46	R　2階	633	旧	0.67～2.53	完了
屋内体育館	S45	R　2階	902	旧	0.54～3.02	完了
食堂・特別教室	S46	R　2階	897	旧	0.60～2.32	完了
渡り廊下 低学年～管理棟	S46	R　1階	27	旧	0.00～2.65	完了
渡り廊下 中学年～体育館	S46	R　2階	98	旧	0.11～2.26	完了
渡り廊下 食堂～管理棟	S46	R　1階	169	旧	0.00～2.99	完了

※１　構造・・・「R」：　鉄筋コンクリート造

※２　耐震基準・・・「旧」：　昭和 56 年以前に建築した校舎等で建築基準法上、旧耐震基準に適合したもの

※３　ＩＳ値・・・建築物の耐震性能を判断するための数値（構造耐震指標）で、国土交通省では、0.6 以上、文部科学省では、0.7 以上が望ましいとしている。

※４　弥彦中学校施設については昭和 57 年以降の建築であり、建築基準法上新耐震基準に適合している。

イ　教育設備の整備

小学校ランチルーム冷暖房設備工事が完了した。

中学校屋内体育館フロアー補修工事を年度末に実施する。

＜効果等＞

第一期の耐震工事が完了したことにより、施設の安全性が飛躍的に向上した。小学校ランチルームの冷暖房設備工事によって夏季給食時が快適な環境に改善されたことにより、児童の食欲が旺盛になった。

＜課題等＞

小学校では大規模改修等と絡めたトイレの改修を検討する必要がある。また、教室の冷暖房の設置も今後の検討課題である。

（５）　教科書採択

燕市と弥彦村で構成される第８教科書採択地区で小学校教科用図書採択協議会を設立し、平成２１年度採用小学校教科用図書の採択を行った。採択教科書は以下の通りである。

種　目	国語	書写	社会	地図	算　数	理科	生活	音楽	図工	家　庭	保健
教科書	学校図書	学校図書	教育出版	帝国書院	啓林館	学校図書	学校図書	教育芸術社	日本文教出版	開隆堂	東京書籍

（６）教職員の研修に関すること

教職員の研修については、県、燕市と連携を取りながら実施した。

①中学校区学校評価研修会を年間３回実施した。内２回は、小・中学校全職員の参加で授業公開、分科会討議が行われた。開催された分科会は、第１回は、①キャリア教育分科会　②家庭学習、学習習慣分科会　③データに基づく授業改善分科会、第２回は、①中２社会分科会　②中２美術分科会　③中１技術分科会である。

②新学習指導要領説明会を燕市教育委員会と共催で実施した。

③転入職員対象の村内施設巡検を実施した。

④村内全教職員を対象に同和教育現地研修（新発田市隣保館）を実施した。

＜効果等＞

小・中学校の連携に向けて、共通理解が得られ、日常の教育活動に反映されている。

＜課題等＞

中学校職員による小学校高学年対象の授業交流をもとに、指導法の研修を行うことが重要である。

（７）保健、安全に関すること

児童生徒が健康で安全な生活を送ることができるよう、疾病予防対策や安全教育を推進するとともに、経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対する支援を行った。

ア　学校保健委員会の開催

年２回、保育園、小学校、中学校、各保護者代表、村健康推進係、教育委員会で子どもの食の現状と対策、健康や体力、運動能力等の現況に関して討議し、今後の課題と対策について話し合った。

イ　学校歯科保健

弥彦小学校が学校歯科保健でのこれまでの実績が評価され、新潟県知事表彰を受けた。最近は、歯肉炎予防指導に力を入れている。

＜効果等＞

児童生徒のう歯保有率は、最も低い水準を維持している。大学との連携がうまくい

っている。

＜課題等＞

軽度の歯肉炎と診断された児童生徒の割合が県平均より高く、継続して指導するとともに、家庭への啓発が必要である。

（８）　就学奨励事業

ア　特別支援教育就学奨励費

特別支援学校又は弥彦小学校の特別支援学級へ就学する児童生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、その経費の一部を補助する就学奨励事業を行った。

特別支援学校	６　名
特別支援学級	６　名

イ　要保護及び準要保護児童生徒就学援助費

	要保護	準要保護
弥彦小学校	０名	２０名
弥彦中学校	０名	１２名
岩室中学校	０名	１名

ウ　奨学金の貸与

	新規貸与	継続貸与
高校奨学金	２名	１名
短・大学奨学金	６名	２３名
専修学校奨学金	０名	３名

＜効果等＞

保護者の経済的負担の軽減に大きな効果があった。

＜課題等＞

不景気による失業や離婚家庭の増加等により、就学援助や奨学金の貸与等の希望者が増大する傾向にあり、予算の増額が必要である。

（９）　学校の環境衛生に関すること

学校の良好な環境衛生を維持するために以下の取組を行った。

ア　学校環境衛生定期検査の実施

学校薬剤師により、以下の学校環境衛生定期検査を実施した。

①薬品等管理状況定期検査

②学校給食衛生管理定期検査

③水泳プール管理定期検査

④飲料水及び排水管理定期検査

⑤照度及び照明環境定期検査

⑥教室等の空気定期検査

イ　学校環境衛生日常点検の実施

学級担任、養護教諭、学校栄養職員等により、日常の点検を実施し、良好な環境を維持した。

＜効果等＞

定期検査と日常点検の実施により、適正な環境が維持できている。

＜課題等＞

小学校給食施設のドライ化が点検の都度指摘されている。早期の改修が望まれる。

（10）　学校給食に関すること

学校給食実施回数と給食単価

	年間実施回数	週実施回数	一食単価
弥彦小学校	１９１ 回	週5回（内 米飯４回）	一食251円
弥彦中学校	１８３ 回	週5回（内 米飯４回）	一食300円

※米飯給食回数　県平均（１９年度）3.71 回　　全国平均（18 年度）2.9 回

※地産地消の割合で米、味噌は１００％弥彦産、野菜の５２％は弥彦産を使っている。

＜効果等＞

児童生徒の日常の食生活と給食を関連させた指導が行われ、食に対する関心を高めることができた。

＜課題等＞

米粉パンの単価が小麦粉パンに比して割高であり、実施回数を増やすことにより給食費を圧迫することになる。給食費一部補助を含めて、検討する必要がある。

2　社会教育に関すること

村民の生涯学習を支援するとともに、各種事業を実施した。

（1）公民館

公民館施設の有効活用や学習機会の提供に努め、村文化協会を通じて村民の各種学習活動の支援を実施した。

「学習情報だより」を毎月「広報やひこ」に掲載し情報提供に努めた。

弥彦公民館内の図書室について新刊ベストセラーを中心に購入整備し、「広報やひこ」に掲載紹介した。

女性セミナー、英会話教室（初級・中級）、成人式、ブックスタート事業等を実施した。

社会教育委員会　　1 回開催

＜効果等＞

講座等の参加者は、それぞれ目的意識を持って受講し、仲間づくりにもつながっている。

＜課題等＞

児童生徒対象事業で参加者が減少しており、事業の継続について検討が必要である。

図書室においては図書の充実が望まれる。

（2）総合文化会館

建築後 30 年が経過しており施設･設備が経年劣化しているため、維持管理に留意し対応した。

20 年度は舞台の吊物（ワイヤーロープ交換）修繕工事を実施し、安全対策を講じた。

自主事業については、自治総合センター（宝くじ収益活用）や県文化振興財団の事業を活用し安価で一流の芸術に触れる機会の提供に努めた。その他貸館による「演歌歌謡ショー」や、中学校･高等学校の吹奏楽部等の利用があった。

利用状況（1 月末現在）

	利用可能日数	利用日数	文化会館	公民館（併設）
20 年度	298 日	235 日	10,698 名	5,077 名
19 年度	298 日	243 日	11,520 名	4,926 名

＜効果等＞

自治総合センター（宝くじ収益活用）の「宝くじふるさとワクワク劇場（吉本新喜

劇）」や県文化振興財団の「マイタウンコンサート（津軽三味線）」を開催し好評を博した。
平成 18 年度から舞台の安全対策工事（吊物関係）を継続して実施しており、舞台利用の安全確保ができた。

＜課題等＞
施設、設備、音響・照明・舞台機材等の経年劣化がすすんでおり、改修整備が望まれる。

（３）文化財保護

村指定文化財、国の登録文化財の保護及び活用を図った。旧武石家住宅の味噌蔵の茅葺屋根の葺き替え事業を実施し保存に努めた。国指定重要文化財の弥彦神社の十柱神社屋根葺き替え改修事業について、国・県並びに村も補助金を支出した。
県営矢川排水路整備事業（村山地内）に係る遺跡確認調査を 10 月に実施した。
平成 17 年度から村史編さん委員等に原稿を依頼し、資料を集め編集してきた「弥彦村史事典」について平成 21 年 3 月に刊行の運びとなった。

文化財保護審議委員会	2 回開催
村史編さん委員会	1 回開催
村指定文化財助成事業	4 件

＜効果等＞
村史編さん事業については、精力的に編集作業を実施してきており年度内（3 月）に「弥彦村史事典」の発刊の目処がたった。

＜課題等＞
村民に対し文化財に触れ親しんでもらう機会を提供し、一層の文化財に対する理解を深めてもらうことが今後とも必要である。
旧武石家住宅の母屋茅葺屋根が経年により傷んできており、2～3 年以内に葺き替え工事が必要である。

（４）文化芸術の振興及び弥彦の丘美術館の運営企画

村民に優れた文化芸術に触れる機会を提供するため、コミュニティセンターを利用して「美術企画展」並びに「弥彦を描く公募展」を開催した。
弥彦の丘美術館については、4 月より新たに教育委員会独自の企画により運営し、多数の入館者があった。

文化芸術振興審議会	2　回開催

芸術振興事業

事　　業　　名	会　　期	参加･入場者	備　　考
弥彦を描く写生会	H20.4.26(土)～27(日)	153 名	
新潟の女流作家 10 人展	H20.5.3(祝)～25(日)	1,743 名	コミュニティセンター
弥彦を描く公募展	H20.10.25(土)～11.9(日)	2,497 名	コミュニティセンター

弥彦の丘美術館

企　　画　　名	会　　期	入　場　者	備　　考
「大山治郎美との出会い」 ＰａｒｔⅠ-文化勲章の作家たち	H20.4.6(日)～ 6.29(日)	5,213 名	
「洋画家中野雅友展」-ユーカラの世界	H20.7.5(土)～ 8.31(日)	1,307 名	
「浦上義昭日本画展」-自然の響き	H20.9.6(土)～ 9.28(日)	852 名	
「鉄と墨異素材＆異空間の楽しみ」 -霜鳥健二･内山玉延展	H20.10.5(日)～ 11.24(祝)	963 名	
「イタリアに魅せられて」-鈴木力展	H20.11.30(日)～ 12.24(水)	581 名	
「大山治郎美との出会い」 ＰａｒｔⅡ-安井賞作家を中心に	H21.1.7(水)～ 3.29(日)	957 名	1 月末現在

＜効果等＞

「弥彦を描く公募展」の開催により、弥彦の新しい魅力の発見と文化芸術の普及に成果があった。

「新潟の女流作家 10 人展」「弥彦の丘美術館自主企画展」の開催により村民に優れた文化芸術にふれる機会を提供した。村外からも多数の方々が来館され、村の観光振興にも寄与することができた。

＜課題等＞

写生会については、村内からの参加者が減少しており、周知方法等について検討する。

3　社会体育に関すること

（1）体育振興

村民の健康とスポーツの振興を図るため体育施設の一般開放をはじめ、村並びに体

育協会主催による各種スポーツ大会を開催した。楽しみながら体力向上や健康づくりを行うことのできるコミュニティスポーツを軸とした「弥彦ワールドカップ」事業を推進した。

ジュニアスポーツの育成のため村内のスポーツ少年団 10 団体の指導者への支援を実施した。

村主催の主な大会

第 59 回村民体育祭	2,000 名
第 6 回弥彦ワールドカップ大会	500 名
第 33 回少年少女ソフトボール大会	120 名

体育指導委員会　　9 回開催（1 月末現在）

（２）施設管理・整備

弥彦体育館をはじめ各体育施設の維持管理につとめた。休日・夜間開放等についてはシルバー人材センターに管理委託した。

経年した村民野球場ナイター照明灯劣化調査と総合グラウンドスタンドの手摺の補修を実施した。

（３）高校駅伝弥彦大会

第 17 回高校駅伝競走弥彦大会については実行委員会を中心に準備を進めており、前回同様に全国から男女強豪校を招待し、3 月 28 日（土）に開催予定となっている。

今回からは日刊スポーツ新聞社が主催に入り、紙面を通じて事前開催記事並びに大会結果を全国に告知する。参加校については男子 62 校、女子 25 校、合計 87 校（2 月 20 日現在）と昨年を上回る申し込みがあり、全国的に認知される大会として定着してきている。

＜効果等＞

各種スポーツ大会（村主催大会を除く）の開催・運営については、弥彦村体育協会に委託して実施し村民に運動機会の提供を図った。

各スポーツ競技団体の育成並びに学校体育クラブの指導等についても弥彦村体育協会に委託して実施した。

＜課題等＞

弥彦体育館は老朽化しており移設改築が望まれる。

21 年度の総合グラウンドの公認更新にあわせた改修工事を実施する必要がある。

4　第 64 回トキめき新潟国体に関すること

平成 21 年開催の第 64 回トキめき新潟国体における自転車競技（トラック）の会場地として準備を進め、自転車競技（ロード）の会場地である南魚沼市及び新潟県自転車競技連盟と共催で第 43 回全国都道府県対抗自転車競技大会（H20.8.25～26）をリハーサル大会として開催した。

第 43 回全国都道府県対抗自転車競技大会（トラック）参加者
選手 174 名（男 136 名、女 38 名）
競技役員延べ 266 名
競技補助員延べ 30 名

＜効果等＞
43 回全国都道府県対抗自転車競技大会（トラック）を開催したことにより、本大会の準備を進める上でも、また機運を盛り上げるためにも意義深かった。

＜課題等＞
本県は自転車競技人口が少ないこともあり、ライセンスを持った競技役員の確保が難しく、隣接県等からの協力が不可欠である。新潟県自転車競技連盟並びに南魚沼市と連携して確保に努めたい。